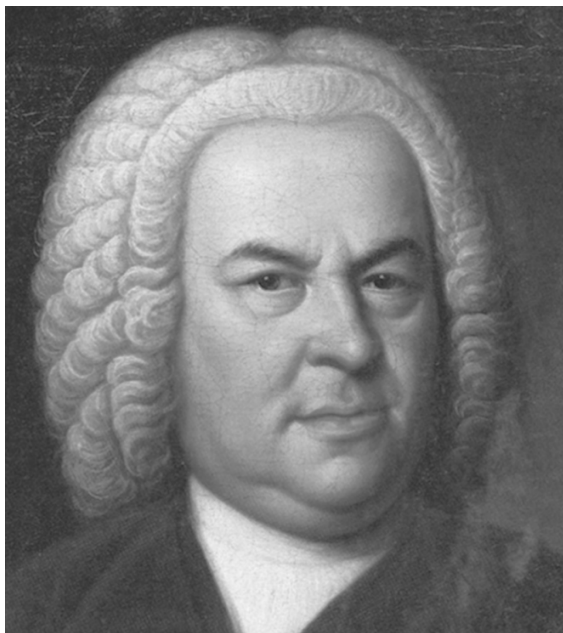


2024 *Musica poetica* 「ムシカ・ポエティカ since 1984」 発足 40周年記念 【II】

<レクイエムの集い>～魂の慰めのために～

J.S.バッハ 『ミサ曲 短調』



指揮◆淡野太郎

独唱・重唱

◆今村ゆかり◆宮本泰江◆笠恵里花 **Sopran**

◆柴田圭子◆北條加奈◆依田卓 **Alt**

◆板谷俊祐◆沼田臣矢 **Tenor**

◆浦野智行◆中川郁太郎 **Bass**

J.S.BACH [1685-1750]

b-Moll

MESSE in

■ユビキタス・バッハ [ピリオド楽器] コンサートマスター◆石川和彦

Trp◆上倉武・田中智也・稲葉絢子 **Timp**◆鈴木力 **Cor**◆大貫ひろし

Fl◆日和崎祐介・杉山容子 **Ob/Ob d'am**◆川村正明・尾崎温子 **Fg**◆河府有紀・前原聡子

VnI◆石川和彦・花岡萌実・松永真理子 **VnII**◆二宮昌世・西村沙紀子・若尾紀子

Va◆鈴木友紀子・谷口勤 **Vc**◆西澤央子・大軒由敬 **Cb**◆西澤誠治・松永秀幸 **Org**◆椎名雄一郎

■ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京 & メンデルスゾーン・コア

SI◆今村ゆかり・内田純子・川田純子・田代田鶴子・中川晶子・宮本泰江・笠恵里花

SII◆梶山いづみ・小谷野淳子・柴田圭子・玉井千恵・水井治子・大和美信

A◆稲垣麻美・栗川三千子・中村光子・畑中久美子・北條加奈・森本浩子

T◆板谷俊祐・大場智夫・甲斐高志・沼田臣矢・武藤和明・依田卓

B◆浦野智行・中川郁太郎・中村誠一・御子柴尚・山村道男

10/18 [FRI] 18:45 開演 三鷹市芸術文化センター「風のホール」

[18:15 開場]

¥4000 ¥2500[学]

■JR 中央線三鷹駅南口から徒歩 15 分。三鷹駅南口2番バス「八幡前・芸術文化センター」下車。

■当日のプログラム冊子に追悼なされたい方のお名前を掲載させていただきます。詳細は見開き右頁下にて。

主催 ムシカ・ポエティカ www.musicapoetica.jp マネジメント/チケット 菊田音楽事務所 T. 042-394-0543

ご挨拶

1984 年、＜ムシカ・ポエティカ＞というグループ名の許に「言葉」が音楽としてどのように表現されているか、に的をあて、研究演奏活動を始め 40 年が経ちました。

「ムシカ・ポエティカ Musica poetica 音楽修辞学」という作曲技法が使われ出したのは 16 世紀、主として北方ドイツのプロテスタントの音楽家によってでしたが、中でもシュッツはその筆頭でした。この技法はバッハをもって終焉を迎えるものの、その後のドイツの作曲家たちの作品にはこの考えが見え隠れしています。

この 40 年、貴重な教えを頂いた多くの師、常に励まして下さった友人たちが旅立たれました。今年の＜レクイエム＞の集いには召された大切な方々に深い感謝を込め、バッハの総決算とも言える遺作《ミサ曲口短調》を演奏いたします。

J.S.BACH 《Messe in h-Moll》

この作品はバッハが全曲のタイトルを決めて書き下ろしたものではありません。成立年代には開きがあり、最終的には「ミサ通常文」が全て作曲され、4 分冊として遺されました。これが一つの作品であるか、またはバラバラな曲なのかということでも論争がありましたが、現在では「一つの作品」であるという結論に達し、成立年代については A.デュル、G.v.ダーデルセンらが 1950 年の終わりに考察した結果が、Ch.ヴォルフ、小林義武によって以下のように報告されています。

4 分冊の成立年代

I.《キリエ》《グローリア》1733 年スコアの自筆譜成立。バッハは 1733 年 7 月 27 日、パート譜を 1733 年 2 月に崩御した強王アウグスト 1 世の嗣子であるアウグスト 2 世に献呈。

II.《クレド》 ニカイア信条 1748-9 年

III.《サンクトゥス》1724 年(僅かの改変とともに 1748-9 年記譜し直された)

IV.《オザンナ、ベネディクトゥス》1748-9 年

《アーニウス・デイ》1748-9 年

《ドーナ・ノービス・パーチェム》1748-9 年

音楽について(若干のメモ)

バッハの考えによって典礼文がいくつかの文節に分けられ、それぞれが独立した音楽となっています。典礼文の基となった聖書の文言に忠実な音楽であることが特徴で、各場面は絵画的に溢れ、特に《オザンナ、ベネディクトゥス》から《アーニウス・デイ》にかけてはイエスのエルサレム入城の情景が目に浮かぶようです。基となった聖書箇所は以下の通りです。

《キリエ・エレイソン》ギリシャ語による祈り「主よ、憐れみたまえ」はキリスト教成立以前の古代に遡り、旧約の詩編にダビデの讃歌として記されています。

《クリステ・エレイソン》「キリストよ、憐れみたまえ」は新約のマタイ伝に 2 人の盲人が懇願する祈りとして現れます。

《グローリア》古代教会のグローリア讃歌は新約聖書ルカ伝の天使たちの讃美で始まり、ユダヤ教、キリスト教の伝統的な歓呼と感謝、続いて三位一体への呼びかけを経て「in Gloria Dei Patris. Amen. 主なる御父の栄光のうちに。アーメン」で終わります。

《クレド》 ニカイア信条

聖書からの引用ではなく、325 年、第 1 回ニカイア公会議で決定され、381 年、コンスタンチノポリス公会議で補完、この形で聖餐式の通常文に入った信仰告白です。

《サンクトゥス》旧約イザヤ書には 6 つの翼を持つ天使セラフィムが互いに「聖なるかな」と呼び交わした、とあります。

《オザンナ、ベネディクトゥス》新約のマタイが伝えるイエスのエルサレム入城における群衆の歓呼と祈りの言葉です。

《アーニウス・デイ》初期キリスト教の聖餐式に関わる文言で洗礼者ヨハネの言った「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ」に基づいています。

各曲の作曲技法はグレゴリオ聖歌からバッハ時代の器楽付きコンチェルト風のものまで多岐に亘っています。編成も独唱、重唱、4、5、6 声合唱、2 重合唱 8 声部と多彩であり、各器楽の音色も豊かでその組み合わせ方も変化に富んでいます。

《Messe in h-Moll》との命名はメンデルスゾーンの師匠 C.F. ツェルターですが、全曲が h-Moll (口短調) というわけではありません。h-Moll は 5 曲に過ぎず、1 番多いのは平行関係長調の D-Dur (二長調) で 13 曲に上ります。D-Dur は Deus(主)を象徴する調性です。冒頭《キリエ》で鳴り響く口短調の和音から聞こえてくる第 3 音～5 音間の燦然たる長 3 度は、これから続く全典礼文の進行を知らせるかのよう響き渡ります。

終曲《ドーナ・ノービス・パーチェム》では、音楽を第 7 曲《Gratias agimus tibi 我ら感謝しまつる》から借用し、原曲では 2 行であったテキストを、主旋律を「Dona nobis pacem」、対旋律を「Pacem dona nobis」と歌わせ、1 行の歌詞で 2 重フーガを完成させました。2 は 1 となって「平和」を知らせ、平和を求めつつも既に与えられていることに感謝するという、バッハの叡智と信仰、彼の持てる全てに頭を垂れずには居られません。10 月 18 日(金)、ご来会を心よりお待ち申し上げます。

2024 年 初秋

＜ムシカ・ポエティカ＞ 代表 淡野弓子

Johann Sebastian Bach 《Messe in h-Moll》 BWV232

MISSA

Kyrie 1. Kyrie eleison 主よ、憐れみたまえ[5 声合唱] **h-Moll**

2. Christe eleison キリストよ、憐れみたまえ[2 重唱 SI/II] **D-Dur**

3. Kyrie eleison 主よ、憐れみたまえ[4 声合唱] **fis-Moll**

Gloria 4. Gloria in excelsis 天には栄光[5 声合唱] **D-Dur**

5. Et in terra pax 地には平和[5 声合唱] **D-Dur**

6. Laudamus te 我ら主を称えまつる[独唱 SII] **A-Dur**

7. Gratias agimus tibi 我ら感謝しまつる[4 声合唱] **D-Dur**

8. Domine Deus 主なる神[2 重唱 SI/T] **G-Dur→h-Moll**

9. Qui tollis peccata mundi 世の罪を取り除くお方[4 声合唱] **h-Moll→fis-Moll**

10. Qui sedes ad dextram Patris 御父の右に座したまうお方[独唱 A] **h-Moll**

11. Quoniam tu solus sanctus 即ち御身のみが聖なるお方[独唱 B] **D-Dur**

12. Cum sancto Spiritu 聖霊と共に[5 声合唱] **D-Dur**

SYMBOLUM NICENUM (CREDO) 13. Credo in unum Deum 我信ず、唯一の神を[5 声合唱] **Mixolydia**

14. Patrem omnipotentem (我信ず) 全能の御父を[4 声合唱] **D-Dur**

15. Et in unum Dominum (我信ず) そして唯一の主を[2 重唱 SI/A] **G-Dur**

16. Et incarnatus est de Spiritu sancto そして聖霊によって受肉され[5 声合唱] **h-Moll**

17. Crucifixus 十字架につけられ[4 声合唱] **e-Moll→G-Dur**

18. Et resurrexit 蘇えられた[5 声合唱] **D-Dur**

19. Et in Spiritum sanctum Dominum (我信ず) 主である聖霊を[独唱 B] **A-Dur**

20. Confiteor unum baptisma 唯一の洗礼を信じ告白す[5 声合唱] **fis-Moll→D-Dur**

21. Et expecto resurrectionem mortuorum 死者の復活を待ち望む[5 声合唱] **D-Dur**

SANCTUS 22. Sanctus 聖なるかな[6 声合唱] **D-Dur**

OSANNA, BENEDICTUS, AGNUS DEI ET DONA NOBIS PACEM

23. Osanna in excelsis いと高きところに讃美あれ[2 重合唱 8 声部] **D-Dur**

24. Benedictus 祝せられたまえ[独唱 T] **h-Moll**

25. Osanna in excelsis (repetatur) いと高きところに讃美あれ[2 重合唱 8 声部] **D-Dur**

26. Agnus Dei 神の小羊[独唱 A] **g-Moll**

27. Dona nobis pacem 我らに平和を与えたまえ[4 声合唱] **D-Dur**

~~~~★☆☆~~~~

## 2024年10月18日(金) <レクイエムの集い> 追悼者記載(当日のプログラム小冊子)申込書

追悼なさりたい方のお名前を下欄にご記入 の上、10月7日(月)までにムシカ・ポエティカ宛、郵便、メール、またはFAXにてお送りください。

〒176-0025 練馬区中村南2-24-12 「ムシカ・ポエティカ」 FAX 03-3398-5238 MAIL : yumiko@musicapoetica.jp

.....キトリ線(余白不足の節は別紙にても承ります).....

故人のお名前(フリガナ)

故人のお名前(フリガナ)

生前のお仕事(お差し支えなければお書きください)

生前のお仕事(お差し支えなければお書きください)

お申込者お名前

ご住所〒

TEL または Mail

## Profile

### 淡野 太郎 *Taro Tanno* 指揮

東京都立芸術高校を経て東京藝術大学卒業。声楽を岡崎實俊、佐々木正利、嶺貞子の諸氏に師事。1997年渡欧。A.ギーベル、C.モラーヌ、Z.ファンダステネ、H.ポルスター各氏に師事。ヘルフォルト教会音楽大学に学び、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス室内合唱団メンバーとして活動。2007年帰国の前後より指揮活動を本格化させ、宗教曲を中心に数多くの作品を指揮、好評を博す。ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京 常任指揮者。ユビキタス・バッハ、メンデルスゾーン・コア各指揮者。ドイツ歌曲研究会「ノイエ・クレング」代表。「ムシカ・ポエティカ」スタッフ・プレーヤー。

### 今村 ゆかり *Yukari Imamura* ソプラノ

横浜国立大学大学院修了。シュッツ合唱団の公演を聴き、合唱、声楽アンサンブルに関心を持つ。イースタークワイア、アンサンブル・クラウドイオを経てハインリヒ・シュッツ合唱団メンバーとなり淡野弓子氏、太郎氏のもと研鑽を積む。

### 宮本 泰江 *Yasue Miyamoto* ソプラノ

大阪教育大学音楽コース声楽科卒業。宗教曲のソロやコロラトゥーラの aria 等演奏。新作室内オペラ（中西寛作曲・岡田征士郎台本演出）出演。メンデルスゾーン・コア、本郷教会<SDG>等にて淡野弓子・太郎氏のもとで研鑽。ガルバホールアーティスト。リラの会、アーティストバンク板橋、歌の会・青い星、日本演奏連盟等各会員。

### 笠 恵里花 *Erika Ryu* ソプラノ

神戸山手女子高等学校音楽科声楽専攻を経て同志社女子大学学芸学部音楽学科演奏専攻声楽コース卒業。同大学卒業演奏会、同大学顕啓会新人演奏会に出演。東京音楽大学大学院修士課程声楽専攻独唱研究領域修了。これまでに鈴木文江、水澤節子、三井ツヤ子、笠置雅子、釜洞祐子、伊達英二、藤井奈生子、服部容子(コレペティトゥア)、武田正雄の各氏に師事。日本シューベルト協会会員。

### 柴田 圭子 *Keiko Shibata* ソプラノ/アルト

武蔵野音楽大学声楽科卒業。「ムシカ・ポエティカ」合唱基礎講座を受講し、合唱の奥深さに触れライフワークとする。ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京及びメンデルスゾーン・コア所属。団内ソリスト及びアンサンブル・メンバーとして数多くのシュッツ作品、バッハ・カンタータ、受難曲、オラトリオを演奏。日本キリスト教団本郷教会オルガニスト。

### 北條 加奈 *Kana Hojo* メゾソプラノ

東京藝術大学声楽科卒、同大学院修士課程修了。演奏会ソリスト、合唱指揮者、ヴォイストレーナーなど幅広く活動。著書に「必ず役立つ合唱の本 目的別1週間メニュー編」「必ず役立つ合唱の本 ヴォイストレーニングと身体の使い方編」(ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス)、「合唱エクササイズ表現編 HOJO METHOD1-3」(カワイ出版)。「ヤマハデジタル音楽教材 合唱練習」発声監修。NHK東京児童合唱団ヴォイストレーナー・講師。

### 依田 卓 *Takashi Yoda* アルト/テノール

国立音楽大学教育音楽科卒業。「ムシカ・ポエティカ合唱講座」を経て1986年H.シュッツ合唱団・東京に入団。以来テノールとアルトの両域で合唱、アンサンブル、ソリストとして活躍。

### 板谷俊祐 *Shunsuke Itaya* テノール

北海道余市町出身。幼少の頃から合唱に親しんだことから声楽を志し、父であり声楽家であった故・板谷基雄から手解きを受ける。社会人生活を経てから東京藝術大学音楽学部声楽科に入学、今年3月に卒業。これまでにバッハ《マニフィカト》、ハイドン《天地創造》などのソリストを務めた。声楽を鈴木寛一、中嶋克彦、櫻田亮の各氏に師事。

### 沼田 臣矢 *Shinya Numata* テノール

東京藝術大学大学院古楽科修了。G.F.ヘンデル「メサイア」、J.S.バッハ「マタイ受難曲」等のソリストを務める。又アンサンブルリストとしてバッハ・コレギウム・ジャパン、ハルモニア・アンサンブル等に出演。ノヌマクタラ室内楽団主宰。合唱CD「Chorus ONTA」シリーズが教育芸術社より多数販売中。ハルモニア・アンサンブルの合唱作品150曲無料配信プロジェクト「クラス合唱を歌う」がYouTubeにて配信中。ノヌマクタラ室内楽団の委嘱作品である合唱作品 平川加恵作曲「石川啄木の詩による組曲」が全音出版社から発売中。

### 浦野 智行 *Chi-yuki Urano* バス

東京藝術大学ではじめホルンを専攻、後に声楽に転向。同大学院声楽科オペラ専攻修了。日本音楽コンクール、奏楽堂日本歌曲コンクール等数多くの入賞歴を持つ。透明かつ柔らかな声と透徹したテキスト解釈で安

定した歌唱をみせている。オペラ、オラトリオの分野で活躍する一方、歌曲にも力を注ぎ特にロシア歌曲の解釈では高い評価を得ている。バッハ・コレギウム・ジャパンのメンバーとしてバッハ教会カンタータ全曲プロジェクトに参加。BIS Recordsではシュッツ《十字架上の七言》、バッハ《ヨハネ受難曲》のイエス、《マタイ受難曲》の aria 等のソリストとして活躍。「ムシカ・ポエティカ」スタッフ・プレーヤー。

### 中川 郁太郎 *Ikutaro Nakagawa* バス

東京藝術大学大学院独唱科修了。藝大定期ハイドン《天地創造》でデビュー後ドイツ、ライプツィヒに留学。帰国後、多数の宗教曲のソリスト・指揮者として活動する傍ら立教大学大学院キリスト教学研究科を修了し、博士号（文学）を取得。声楽を多田羅迪夫、末吉利行、故 太田直樹、H.Ch.ポルスター 他の各氏に、演奏法を故 東井美佳氏に、指揮を長谷川朝雄氏に師事。東京室内歌劇場会員。東北学院大学宗教音楽研究所特任准教授。「ムシカ・ポエティカ」スタッフ・プレーヤー。

### 石川 和彦 *Kazubiko Ishikawa* ヴァイオリン

大阪音楽大学器楽科卒業後バロック・ヴァイオリンを始め日本テレマン協会の主な公演に出演。2001年に渡仏しストラスブル音楽院にてバロック・ヴァイオリンとバロック音楽の研鑽を積み2004年卒業。フランスでは“Le Parlement de Musique”などで活躍。2005年に帰国後は東京を拠点に室内楽やオーケストラでモダン、古楽器とも活潑に活動。ヴァイオリンを曾田義嗣、林泉、佐藤一紀、バロック・ヴァイオリンを中山裕一、桐山建志、伊左治道生、ステファニー・ピスター、フランソワ・フェルナンデスの各氏に師事。バロックアンサンブル「クラングレーデ」メンバー。「阪神古楽倶楽部」コンサート・マスター。

### 椎名 雄一郎 *Yuichiro Shiina* オルガン

東京藝術大学器楽科オルガン専攻卒業。同大学院音楽研究科修了。第1回ダラス国際オルガンコンクール第2位。第12回ライプツィヒ・バッハ国際コンクール第3位。2002年NDR(北ドイツ放送局)音楽賞国際オルガンコンクール優勝。ウィーン国立音楽大学、スイス・バーゼル・スコラカントルム音楽院に留学。日本のほかスイス・オルガンフェスティバルをはじめ、ドイツ、オーストリアを中心に欧州各地で演奏会を行う。現在 東北学院大学文学部教授。大学宗教主任。日本基督教団讃美歌委員会委員。日本基督教団吉祥寺教会オルガニスト。「ムシカ・ポエティカ」スタッフ・プレーヤー。

### ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京

#### *Heinrich-Schütz-Chor Tokyo*

1968年4月東京に発足。以来シュッツ作品の研究・演奏を中心課題とし古今の宗教曲、世俗曲の公演を続け日本を代表する合唱団の一つとして内外の信頼を寄せられている。1989年淡野弓子指揮のもとシュッツ全作品連続演奏を開始し、2001年およそ500曲の演奏を達成。2008年 創立40周年を機に淡野太郎が常任指揮者に就任。自主公演に加え日本キリスト教団本郷教会主催による讃美と祈りの夕べ<Soli Deo Gloria ただ神にのみ栄光>へはメンデルスゾーン・コア有志とともに毎回参加し、教会暦によるバッハ・カンタータの演奏を続けている。2025年4月より第2次「シュッツ全作品連続演奏」開始予定。

#### *Mendelssohn-Chor*

メンデルスゾーンの知られざる合唱曲に光を、をモットーに2006年5月「ムシカ・ポエティカ」の新しい合唱団として発足。淡野太郎指導・指揮のもとメンデルスゾーンを中心にシュッツ、バッハ、ディストラーらの作品によって研鑽を積む。2015年〜20年、4回に亘る19世紀の合唱小品を集めた小規模なコンサートを開催。シュッツ合唱団との共演によってメンデルスゾーン《エリヤ》、《パウロ》、リスト《キリスト》、ベートーヴェン《交響曲第9番》、ハイドン《天地創造》など大編成の作品を演奏。

#### *Ubiquitous Bach*

1998年4月に開始された日本キリスト教団本郷教会の音楽夕拝<Soli Deo Gloria>において2003年9月13日よりバッハ・カンタータの教会暦による連続演奏が始められ、それに伴って組織された器楽アンサンブル。プロ、アマを問わず毎回のプログラムに最も相応しい実力派の器楽奏者によって編成され、これまでに百数十曲のバッハの教会カンタータ、ミサ曲、受難曲を演奏。

~~~~~☆★☆☆~~~~~

2025年4月9日[金]19:00 東京カテドラル聖マリア大聖堂

第2次「シュッツ全作品連続演奏」第1回

<受難楽の夕べ>

◆シュッツ《ルカ受難曲》 ◆リスト《十字架の道行》

指揮・Bar 淡野太郎 B 浦野智行／中川郁太郎 Org 椎名雄一郎

ハインリヒ・シュッツ合唱団・東京

~~~~~☆★☆☆~~~~~